

人口密集地の水循環

洗足学園中学校

一年 野口 明日美

私の住んでいる横浜市には、昭和五十年代頃までよく洪水を起こしていた鶴見川があります。小学三年生の夏休み、鶴見川の源流から下流までをたどるツアーに参加しました。その土地に降った雨が全てその川に流れ込む範囲を流域というのですが、流域に降った雨が最後には一つの川の流れとなって海に流れ着きます。そして海まで流れ着いた水は雲となり、再び流域に雨となって降ってきます。このサイクルを、水循環といいます。水循環系の中で私たちは様々な形で水を使っています。そのため、私たちが水を使いすぎたり汚したりしてしまうと水循環系のバランスは崩れてしまうので、健全な水循環系を作り、保ち続けることが大切だそうです。健全な水循環系のための、五つのポイントがあります。

一つ目は、洪水の対策をすることです。昔はたくさん
の森林や田畑に雨が染み込んで、ゆっくりと川に流れ込んでいたのに対して、現在は地面の多くがアスファルトや建物で覆われて水が浸み込まなくなり、雨水が一気に川に流れ込むことで洪水が起りやすくなってしまっています。私は鶴見川のツアーで洪水対策の設備を見学したのですが、洪水が起りそうなときに多目的遊水池や調節池に水を入れて川の水量を減らす取り組みがされています。多目的遊水池は普段、公園やグラウンド、テニスコートなどとして利用されてきました。晴れているときは人々の運動や遊びの場所だけでなく、大雨のときは水害から暮らしを守る遊水池になります。上手に土地を利用していても良い取り組みだと思います。

二つ目は、きれいで豊かな水の流れを取り戻すことです。鶴見川は昭和四十年頃、水質汚濁が進みました。しかし下水処理場が整備され、私たちの生活で使われて汚れた水をきれいにすることで川の水がきれいになっていきました。実際ツアーの途中で鶴見川に入り、ドジョウや小さなエビなどの生物観察をしたことがあるのですが、水は透明度が高くてきれいでした。

三つ目は、自然を守り、未来に残すことです。自然の木々は緑のダムとも呼ばれるように水を蓄え、洪水を防いでくれます。

四つ目は、いざというときのための準備です。川は大地震などで道路が使えなくなっても必要な物を運ぶことが出来ます。また、火事の消火に川の水を使うこともできます。

五つ目は、流域や川と人がふれあえる場を作ることです。流域や川のことを知ってこそ、健全な水循環系のために何ができるのか考えられるはずです。

例えば、家庭の屋根面積が土地の二割を占める横浜市では、雨水貯留タンクの設置に補助金を出しています。森林、水田などの減少により雨水が浸透しにくい地域が拡大したことで、局地的な大雨への対策や水循環の再生強化が必要になったのです。我が家でも二〇一八年の六月に環境創造局管路保全課へ申請して、百リットルの雨水貯留タンクを設置しました。それ以降は異常気象でない限り、タンクの水だけで自動車二台分の広さの家庭菜園で使う水をまかなうことが出来ています。また災害時には、トイレを流すための水としても活用することが出

来ます。雨水貯留タンクを設置する家庭が増えれば洪水や災害への対策になり、水の節約や水循環系を良くしていくことにつながります。

このような健全な水循環系のための取り組みは、私たちの生活環境を良くしていくことにもつながります。他人事としてとらえるのではなく、健全な水循環系のための取り組みは、企業や行政、市民が協力して行っていくことが大切だと考えます。